

# KINJO MIND

# KIN

# D



金城大学 後援会会報誌【カインド】

2005年3月発行号  
(第4号)

## 自分だからこそできることを…

それぞれが考えた、また体験した福祉

**学生、新社会人のレポート**

学生 加須屋正和・井合 瞳 新社会人(卒業生) 齋藤 愛／特集  
就職支援事業報告と結果・・・第一期卒業生が活躍しています  
第一期生の進路結果、二期生の就職状況など／キンジョウライフ  
学校行事：入学式、卒業式、初めて社会に巣立ちました。  
クラブ活動：卓球部、女子バレー部、今年も全国大会で活躍。  
オープンキャンパス：研究室公開で高校生からたくさんの質問が。  
トピックス：地域との連携、社会貢献、韓国との大学交流など、積極的に。  
学園情報：短大部が中国の短大と提携、遊学館高校が甲子園大会三回戦出場。  
後援会総会などの報告／活動レポート

**「真面目」に取り組むということ**

高田稔浩（アテネバラリンピック ゴールドメダリスト）／メッセージ

# 障害者だからできる福祉。笑顔に応える福祉。

社会福祉コース一年 加須屋正和・社会福祉コース四年 井合瞳

卒業生 齋藤愛（一期生）

二〇〇四年、本学初の卒業生が社会人となり、また新しい学生が入学、そして続けて巣立つてきます。新一年生と卒業を迎える四年生、そして社会人一年生に、それぞれの立場や経験から、福祉への想いについて聞きました。



障害がプラスになると信じ、入学。ただ時間が過ぎていくだけではもつたらない。加須屋

自分を活かせて、自分がやりがいを感じる仕事をしたいと思い、金城大学に入学しました。

私は十九歳の時、バイクで車との交通事故で脊髄を損傷して車椅子の生活になりました。それからの人生は常に障害者という見られ方が付いて回りました。就職をするのにも、どこかへ出かけるのにもマイナス要因でした。就職活動をするのにも、自分がその仕事ができるのかということよりも、まずその車椅子でも仕事が出来れる環境があるかとすることが最初の問題なのです。「仕事の内容は問題がないけれども、当社は車椅子の人を雇う設備がないので」と断られることが多々ありました。そんな中でも何とか仕事も決まり、働いていました。ですが、「今の仕事で良いのか?」と思った時に、ピアカウンセリング（ピアとは「仲間」という意味で、障害者同志のカウンセリングを意味します）の存在を知ったのです。今までマイナスと言われ続けていた障害が「プラスになる」、「障害者だから出来る仕事」と思いました。そのために社会福祉士の資格を取得しようと思い、この人もいます。アテネのパラリンピックでは、共に練習しました。

金城大学に入学しました。  
せっかく県内に社会福祉士の資格に関係した大学があるのだから、障害を持っている人も自分の可能性を信じ、伸ばせる、やりたい事を実現していく場となつていけば素晴らしいことだと思います。



約三年前に車椅子マラソンに興味を持ち、話を聞いてみたらその世界記録は一時間二十分台だと聞き、たいへん驚いたことを覚えています。それは健常者のマラソンより速い記録で、トップクラスの選手だと平均時速三十キロメートルで走ると言うのです。しかも、良い記録を出すのは、障害の軽い人なのだと思ったら、世界記録を出した人は私とほとんど変わらない障害レベルの軽くない人だったのです。そこで、試しに陸上用の車椅子（以下レーサー）に乗せてもらつて挑戦してみたのですが、最初は百メートルも走れませんでした。しかし、その時の悔しさと同時に日常の車椅子では感じられないスピード感が新鮮で、すごく楽しく感じました。高価でしたが、私はすぐにレーサー（約六十万円）を注文しました。

車椅子マラソン界では、現在プロとして活動している人もいます。アテネのパラリンピックでは、共に練習していました。

これまで、多くの人に助けてもらいました。これからも、いろいろなことに参加して、多くのことを感じ、吸収したい、そして、少しでも楽しく、良かつたと思える人生を送りたいし、いつか誰かが私から何かを感じ取ってくれる様な人間になりたいと思います。

ただ時間が過ぎていくだけではもつたない、躊躇もある。ひょっとしたら人生は辛いことの方が多いかもしれないけど、一生懸命に明日の自分を信じ、真剣に頑張っていければと考えています。

## 仲間たちと互いの良いところを発見し、伸ばし、協力することを学びました。井合



私は中学生の頃から、地域で子ども会活動の手伝いなど、いろいろな行事に参加していました。そして、児童だけに捉われず地域福祉や障害者福祉を学びたく思い、金城大学に入学しました。

入学後は、今までの活動の継続に加え、他にも多くの行事に参加するようになりました。

学生生活の中でも心に残っているのは、三年の夏休みに金沢の児童会館で行った「町инг」でした。このイベントは、児童会館全体を一つの町に見立てて、子ども達にお金の流れ、人や自然などのふれ合いを体験してもらおうという企画です。最初は大学生とサポートの方たちで、約十人程度で企画・スケジュールを考え、スタッフしましたが、徐々にスタッフが増え、専門学校生、高校生、そして県外の方も協力してくれました。意見の对立等で辞めたいと思ったこともありました、期間中は喜びを分かち合い、とても感動しました。

また、一年生の時、授業で観たビデオで施設の方の「楽しそうな笑顔」がとても印象的で、その年の夏休みに施設のイベントに参加したことも良い経験でした。打ち合わせの段階から、利用者に接し、とても身近に感じる

私は中学生の頃から、地域で子ども会活動の手伝いなど、いろいろな行事に参加していました。そして、児童だけに捉われず地域福祉や障害者福祉を学びたく思い、金城大学に入学しました。

入学後は、今までの活動の継続に加え、他にも多くの行事に参加するようになりました。

学生生活の中でも心に残っているのは、三年の夏休みに金沢の児童会館で行った「町инг」でした。このイベントは、児童会館全体を一つの町に見立てて、子ども達にお金の流れ、人や自然などのふれ合いを体験してもらおうという企画です。最初は大学生とサポートの方たちで、約十人程度で企画・スケジュールを考え、スタッフしましたが、徐々にスタッフが増え、専門学校生、高校生、そして県外の方も協力してくれました。意見の对立等で辞めたいと思ったこともありました、期間中は喜びを分かち合い、とても感動しました。

また、一年生の時、授業で観たビデオで施設の方の「楽しそうな笑顔」がとても印象的で、その年の夏休みに施設のイベントに参加したことでも良い経験でした。打ち合わせの段階から、利用者に接し、とても身近に感じる

ことができました。当日は学生や社会人も多くいて、みんなの意見、協力で成り立っていることを知りました。

体験を通して、かけがえのないものをたくさん手に入れる事ができました。その一つが仲間たちです。大学で知り合い、仲良くなつた友達、一緒にボランティアなどを通して知り合うことのできた大学生、高校生、そして、活動をする場を提供してくださった方々、参加された皆様、多くの出会いがあつたからこそ今の自分ができるのだと思います。

話し合いにより、お互いの良い所を発見し、伸ばそうとする中で、自暴と悪いところを補い、良いところへと変わっていく、ということも学びました。

社会人になつても、四年間で学んだこと、感じた思い、そして出会うことのできた多くの方々を忘れずに頑張っていきたいです。そして、これからもたくさんの「笑顔」に出会えていけたらと思います。

## 介護の道を極めようと決心。教科書の中とは違う、人対人の現場で。齋藤

私は金城大学を卒業し、現在特別養護老人ホームで働いています。

学生時代、介護職に就くなんて全く考えていなかつた私は、介護をしているというのは今も不思議で仕方ありません。学生時代は教員を目指していたこともあり、教職や障害者福祉についての勉強に力を入れ、介護については正直力を入れていませんでした。しかし、今ではそれを非常に後悔しています。

就職がなかなか決まらなかつた私は、先生からの勧めで今の仕事に就きました。介護職という全く予想していなかつた展開に自分でも驚きましたが、この仕事に就くからは介護の道を極めようと決意しました。私の働く施設は、昨年十月に開設した施設なので、卒業してから就職するまでに少しの期間がありました。私はその間ヘルパー資格を取得したり、研修に参加したりと介護職に向けての準備をしました。

施設名 社会福祉法人 喜峰会 ボニユール根上苑

(石川県能美市)

ばかりですが、その笑顔に応えられるよう、他の職員の方々からも多くのこと学び、吸収して少しずつ視野を広げて成長をしていきたいと思っています。



しかしいくら準備しても、現実は甘くありませんでした。毎日が失敗や後悔の繰り返し、頭の中がいっぱいでした。毎日が失敗や後悔の繰り返し、頭の中がいっぱいでした。毎日が失敗や後悔の繰り返し、頭の中がいっぱいでした。新設ということもあって、「人対人」の現場にただ戸惑うばかりでした。

今はようやく施設にも慣れ、自分のベースと利用者のペースを保ちながら、介護の大変さを噛みしめています。そして、これまで以上に利用者との関わりを大切にし、表情や小さなサインに気付いていきたいと思っています。

正直仕事は大変ですが、今の私を支えているのは利用者の「笑顔」です。まだまだこれからということばかりですが、その笑顔に応えられるよう、他の職員の方々からも多くのこと学び、吸収して少しずつ視野を広げて成長をしていきたいと思っています。

# 第一期卒業生が活躍しています。

二〇〇四年三月、本学初めての卒業生を送り出しました。学生に四年間通しての就職支援事業、学生の皆様、ご家族の皆様のご努力により、初年度の就職率は高い数値となりました。

## ●第一期生の進路結果

就職率…九二・八% 進学率…〇・一%

その他…七%

第一期生卒業後七月末時点での就職率は、九二・八%となりました。「週刊東洋経済」十月九日号で本当に強調された大学特集において本学の就職率が私立大学文系部門で全国一位と掲載されました。

自らの人生に対して能動的にチャレンジした第一期生にエールを送るとともに、後援会会員皆様のご理解とご協力の賜物であると感謝しております。

今春の卒業予定者につきましては、二月末日現在、進路未定者は十五名となっています。卒業後にも個別にきめ細かく支援をしていく体制を整えています。



## ●本学一年間の就職状況

一年生の時点から積極的に：福祉施設等…

卒業生の八割が福祉現場に就職しており、採用職種は圧倒的に介護職が多くなっています。相談援助職としての受入は若干ありますが、ほとんどの施設は介護職を経験した上で適性を見ながら相談援助職にローテーションしたいと考えています。

施設種類では、特養・老健等高齢者施設からの求人が多く、障害者・児童関連施設は欠員補充程度の求人にとどまっています。障害者・児童関連施設での就職を希望している場合は、一年生の時点からボランティア等を通じて、施設側から評価された方が採用されているケースが多いようです。なるべく早期より施設と関わりを持つ事が、就職にも有利ではないでしょうか。これは高齢者施設でも同じことが言えます。

## 大学生活での質とスキルを評価：一般企業…

メディア等で「新卒採用枠が若干上向きとなつてきました」と報道されていますが、大卒就職氷河期は脱していません。企業の「厳選採用」「就職活動の早期化」に歯止めがかかるないことに学生が対応できていないことが大きな要因となっています。

企業体力が衰弱気味の現状では、より厳選することから「即戦力」の可能性を秘めた学生発掘の流れはまだ続くと予想されます。企業は、大学生活での「質」とそれから得た「スキル」から今後の可能性について判断します。学生は、目的意識をもって普段の自己啓発を心がけることが必要です。

## 知識の積み上げを：教員・公務員採用試験…

かなり「狭き門」となっています。この二年間の本学実績は、教員採用試験（名（石川）／富山）・公務員採用試験（名（石川県警）／郵政公社）でした。「狭き門」ですが、不可能ではありません。

まず一次試験である筆記試験対策が重要です。本学では各採用試験対策講座を、年間一千五コマで実施していますが、講座出席以外でも知識の積み上げが必要です。

また、公務員採用試験対策講座は、就職試験の筆記試験対策にもなります。受講料は二万五千円ですが、なるべく多くの学生の受講をお勧めします。

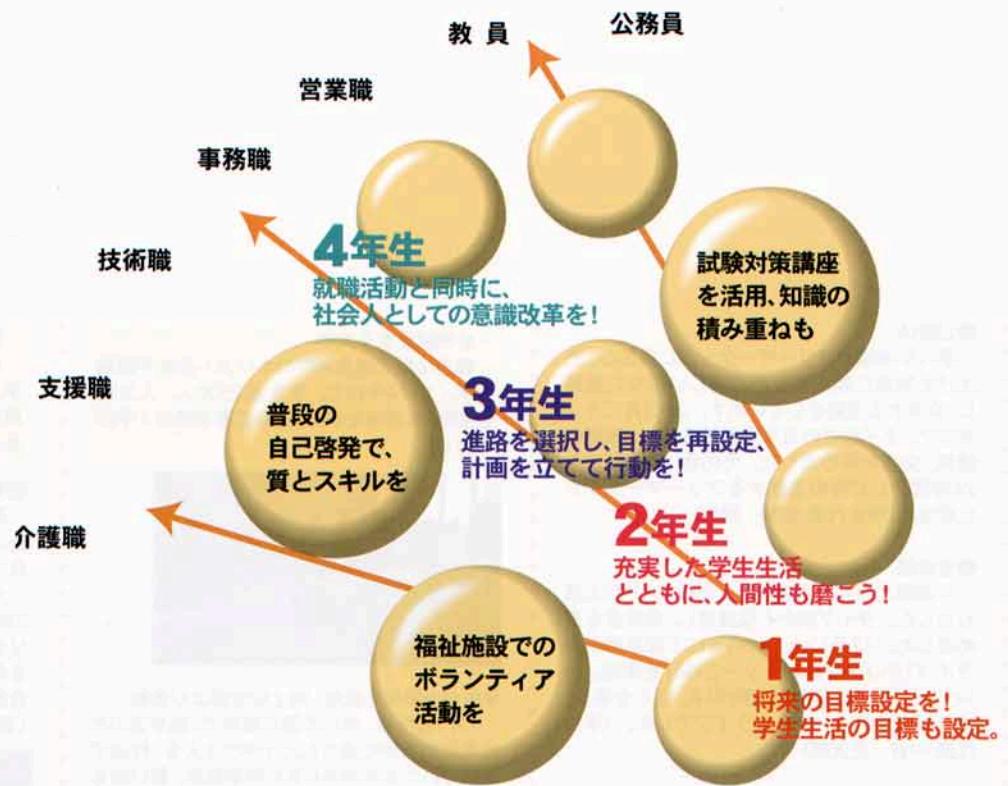
## ●社会福祉士国家試験について

### 一期生現役合格 三十二名

「第十六回社会福祉士国家試験」の現役合格者は三十二名でした。本学として初めてチャレンジした結果については、まずはその成績と思われますが、今後合格に向けた支援を更に充実させていきます。十六年度の同試験は、平成十七年一月二十三日（日）に実施され、一八二名が受験しました。

支援につきましては、「対策講座」「学内模擬試験」を中心に行っています。十六年度は、講座・模試への参加率が非常に悪く結果に影響するのではないかと危惧しています。次年度は、参加率向上のための対策に加え、「国家試験対策サークル」を立ち上げます。是非ご家庭でも積極的な取組みに向けたアドバイスをお願いします。

られます。周りに流されずに自分をしっかりと見つめる事が重要で、企業希望者にとって三年生後期から就職活動を開始することが必要です。



### ●地域別就職内定者数

都道府県	企業	福祉施設等	公務員	教員	計
石川	24	92	2	0	118
富山	4	23	0	1	28
福井	1	10	0	0	11
新潟	4	3	0	0	7
静岡	1	5	0	0	6
愛知	5	3	0	0	8
岐阜	0	3	0	0	3
神奈川	1	0	0	0	1
栃木	0	2	0	0	2
群馬	1	0	0	0	1
広島	1	0	0	0	1
大阪	1	0	0	0	1
長野	0	5	0	0	5
香川	0	1	0	0	1
東京	2	1	0	0	3
計	45	148	2	1	196

### ●職種別就職内定者数

職種	内定者数		
	介護	社福	計
介護職	64	57	121
支援員、指導員	5	19	24
相談援助職	2	10	12
営業職	3	12	15
接客業	3	5	8
事務職	1	11	12
技術職	0	1	1
教員	1	0	1
公務員	0	2	2
計	79	117	196

### ●就職内定先

業種／施設種別	詳細／内訳	内定者数(コース別)		
		介護	社福	計
福祉施設等	特別養護老人ホーム	46	21	67
	介護老人保健施設	12	6	18
	グループホーム	0	1	1
	デイサービス	0	2	2
	有料老人ホーム	1	3	4
	居宅介護等事業	0	4	4
	知的障害者施設、身体障害者施設、精神障害者施設、療護施設	7	27	34
	児童関連施設	0	4	4
	病院	3	10	13
	その他	1	0	1
企業	卸売・小売業	3	15	18
	サービス業	1	1	2
	情報通信業	0	1	1
	飲食店・宿泊業	1	1	2
	医療・福祉	2	10	12
	製造業	0	3	3
	金融・保険業	1	4	5
	複合サービス業	0	1	1
	教育・学習支援業	1	1	2
	公務員	0	2	2
計		79	117	196

卒業予定 227名 就職 196名、進学 8名、未定 23名(含 就職を希望しない 8名)

### 2004年度内定状況

(2005年2月末日現在)

### 2005年度支援行事一覧

事業区分／事業名		対象学生 1 2 3 4	実施時期	備考
総合支援	企業			
就職ガイダンス	自己発見レポート	○ ○ ○ ○	4月、10月	学年別、年2回実施 ※4年生後期は1月実施
	就職適性検査	○	4月	学生生活を意欲的に取り組むための自己理解テスト
	就職模擬試験	△	6月	進路選択や就職活動の前に必要な自己理解・自己分析のための検査
	就職活動対策講座	△	11月	就職試験(筆記試験)に備えるための模擬試験
	就職活動マニュアル作成	○	12月	就職活動に必要となる面接・マナー・履歴書記入に関する講座
	企業研究講座	△ △	10月	3年生全員に配布
進路別支援	内定者報告会(企業)	△ △	11月	企業より講師を招いての企業研究のための講座
	福祉人材センター登録会	△	4月	4年生による活動体験談、後輩へのアドバイスなど
	福祉施設等就職対策講座	△	11月	石川県福祉人材センターの登録説明会
	福祉施設等研究講座	△ △	12月	就職活動方法に関する具体的な説明など
	内定者報告会(福祉施設等)	△	1月	4年生による活動体験談、後輩へのアドバイスなど
	介護技術講習会	△	2月頃	介護職としての就職決定者に対する実技講習(社会福祉コース学生対象)
公務員	公務員採用試験対策講座	△ △ △	6月～翌年5月	2時間×25回(18:00～20:00)
	教員採用試験対策講座	△ △ △	6月～翌年5月	2時間×25回(18:00～20:00)
	社会福祉士学内模擬試験	△	4・7・10・12月	
	3年生社会福祉士学内模試	△	2月	
国家資格取得支援	社会福祉士全国統一模擬試験	△	11月	日本社会福祉士会による全国規模の模擬試験を学内で実施
	社会福祉士国家試験対策講座	△ △	10月～1月	全試験科目の出題傾向やポイントの解説
	介護福祉士統一試験対策講座	△	1月	全試験科目の出題傾向やポイントの解説
	社会福祉士学内模擬試験	△	4・7・10・12月	

備考： ○全員対象 △希望者対象

### ●LIBRA

学内や地域のフリーマーケットに参加し、売上げを物資に換えて世界の貧しい国々に提供し、交流する活動をしています。2~3月にカンボジア、タイなどの日本語学校を訪ね、物資の提供、交流を深めました。その他、金沢駅前や24時間テレビ等の主催するフリーマーケットに参加。(学生代表:安部 陽樹)

### ●音楽部

学園祭にライブを実施し、全8バンドが出演しました。ライブ前から猛練習し、完成度を高めました。12月にvanvanV4にて音楽部主催ライブ「クリスマスパーティー2004」を実施。全9バンドが出演。観客動員数89名、自ら企画し、オリジナリティーのあるライブでした。(学生代表:中谷 正太郎)

### Open Campus

## 3 オープンキャンパス

たくさんの高校生の質問や相談に先生と学生が対応!!

6月から計6回開催。3回以上参加した高校生もいて、「他の高校の友達ができた」「先輩と親しくなれた」など、喜びの声もたくさんいただきました(参加者は昨年度より多い350人以上、保護者参加も年々増加傾向です)。

今年は新たに「研究室訪問」が加わり、参加者も最初は緊張で戸惑いながらも、書籍の多さや研究ゼミの内容にとても興味を持った様子でした。10月から12月には「小論文対策講座」「入試直前対策セミナー」を、「金城祭」と平行して行なった「出願書類の書き方講座」も開催。出願書類記入の不明点や小論文のポイントなど、様々な質問をいただきましたが、帰る頃には自信もついた様子でした。

(入試広報室長/丹後 裕)



### Topics

## 4 トピックス

地域との連携、社会貢献、韓国の大学との交流を積極的に実施。

韓国・全州紀全女子大学長ら來学

5月28日、大韓民国の全州紀全女子大学の学長以下15名が本学を訪問されました。学長挨拶の後、実習設備や教室・演習室等を見学し、その後、カリキュラム等教育に関する研究、学生支援の現況等について約1時間懇談、最後に今後の両大学間の交流について話しました。

### ・全州紀全女子大学

韓国全羅北道全州市のキリスト系女子短期大学。1974年設立。学生数2500人。人文社会学部、保健福祉学部、実用芸術学部の3学部がある。



学生が小学生を救助、海上保安部より表彰

7月1日午後、市内の徳光海岸で、風や波のため海岸から沖に流された小学生4人を、付近で泳いでいた本学学生6名が無事救助、尊い命を救いました。8月2日金沢海上保安部にて、学生6名に対し、恩田隆部長より第九管区海上保安本部長表彰が授与されました。(写真提供: 北國新聞)



災害を受けられた学生のご家族に見舞金を

7月の梅雨前線豪雨、9月の台風16号、および10月の新潟県中越地震で、一部の学生の帰省先が被害を受けました。後援会からは当該学生(新潟県・福井県・高知県)に対して、見舞金を送らせていただきました。

白山市共同事業～プロジェクト・ウェルネス～

松任市(現 白山市)と本学が連携した初の健康増進事業の研究発表会が、12月15日に松任市民交流センター(現 白山市民交流センター)で開催。角市長、本田学長、市の部課長ら約100名が出席し開催。2年生及び4年生のゼミ生がそれぞれ4月より市民アンケートや市内の運動施設、公園、ウォーキング道路などを調査し、利便性や欠点、改善点、身体に及ぼす影響などをまとめ、発表しました。この事業は、今後も継続して実施していくと考えています。

### Kinjo News

## 5 学園情報

短大部が海外大学と提携、遊学館高校は3回目の甲子園。

金城大学短大部が、中国無錫科技職業学院と教学提携締結。

短大部は、10月14日に本田学長が中国へ訪問し仮調印を済ませ、翌11月8日に本学にて加藤理事長が正式な調印を行い、中国・無錫市の無錫科技職業学院と学術交流協定を結びました。

これにより2006年以降、日本語やビジネス学を中心中国人学生を受け入れる予定です。また、教員の相互派遣、教育機器等の物的交流も進めていく予定です。

### ・無錫科技職業学院

江蘇省の国家高新技术産業開発区に昨年開学、学生数約千人の三年制短大。情報管理、応用電子技術、実用日本語など8学科があり、日系企業の人材需要に応える即戦力を養成。

### 遊学館高校野球部 夏の甲子園大会出場

遊学館高校野球部が、全国高校野球選手権大会に出場。春の選抜大会と合わせると創部4年目で3回目の甲子園出場を果たしました。

大会では、攻撃力を発揮して1回戦を突破。2回戦は、強豪東北高校の壁に、残念な結果となりましたが、後輩たちは、「全員野球」、「挑戦」を合言葉に、より一層練習に励み、全国制覇を目指しています。

(遊学館高校 事務室長:白川 栄治)



### 平成16年度後援会 総会・懇親会の報告

7月31日、後援会総会及び懇親会を本学講義室及び新食堂にて開催。当日は、保護者110名(1年39名、2年15名、3年31名、4年25名)が出席しました。

総会では、高嶋前後援会長、本田学長の挨拶に始まり、新会長に就任した実盛祥隆氏を始めとした役員・委員の新体制が承認されました。また、15年度事業報告、決算及び16年度事業計画案、予算について報告し、承認が得られました。

懇親会では、教員も多数参加し、保護者の皆様から学内生活、就職、教育内容等、多くの意見を頂き、たいへん有意義な意見交換の場となりました。



### 平成16年度 役員・委員氏名 (敬称略)

会長	実盛祥隆
副会長	琴坂幸広 佐々木英雄
監査	宮井雄司 島 時次
委員 (4年)	川村恵子 西東晴江 井合涼子
	奥田幸子 坂本博幸 中出 修
	西出洋子 宮崎永次 乾 洋子
	小川澄恵 朝里美佐子
委員 (3年)	太田順司 堅田義光 白江将二
	西田茂喜 山本淑江 荒井雅子
	政氏啓子 山村正親 德田清美
	宮下美知子
委員 (2年)	青江初美 浅井二郎 土居岸直美
	中野仁美 前田茂男 西本清一
	端谷 宏 益江 守 酒井光夫
	松下導成
委員 (1年)	岩倉正信 田中郁子 德田由美子
	橋本友江 舟木茂則 細川悦夫
	村中玲子 八島美弥子 谷内口信弘
	横山弘美

# 活動レポート



## Events

### 1 学校行事

180人が本学から初めて社会に巣立ちました。

#### ●卒業式

本学第1回の卒業証書・学位記授与式が平成16年3月18日、松任市民会館(現 白山市松任文化会館)で行われ、180人が社会人としての自覚を胸に巣立ってきました。

加藤理事長が告辞を述べ、三澤前学長が「福祉には人を愛する気持ちが大切。足元をしっかりと固め、最良と思われる道を歩め」との言葉を贈りました。

角市長、大本市議会議長が祝辞、在学生代表の赤木優也さんの送辞に対し、卒業生代表の田中由紀子さんが答辞を述べました。

終了後、同窓会設立総会を開催し、同窓会が設立されました。そして、卒業パーティーでは、卒業生達が良き思い出となった学生生活を振り返っていました。(関連記事:就職支援事業報告)



#### ●入学式

入学式が4月3日、松任市民会館で行われ、217人が大学生活をスタートしました。

加藤理事長が告辞を述べ、本田学長が「知識、技術、思いやりを持った癒しの提供者になってほしい」と激励しました。

角市長が祝辞を述べ、最後に新入生を代表して、辰田沙弥香さんが「専門的な知識と幅広い教養を身につけ、福祉のエキスパートを目指します」と宣誓をしました。

(写真提供:北國新聞)



#### ●新入生歓迎会

5月11日、新入生歓迎会を開催。サークル紹介、新入生と在学生とのグループになり実施したオリエンテーリング、bingo大会、ゲーム等を行い、良い交流の場となりました。

(新入生歓迎会実行委員長:渡辺 雅美)

#### ●学園祭

10月30・31日に開催された第29回金城祭は、前夜祭も含め盛大に行われました。30日はあいにく雨でしたが、翌31日は晴天に恵まれ、各種イベント・模擬店・ライブ、ゼミ発表等を開催。

また、期間中は中越地震義援金募金活動をしました。



## Culture and Athletics

### 2 クラブ活動

卓球部、女子バレー部が今年も全国大会で活躍。

#### ●卓球部

今年も男女とも北信越春の大会で連続優勝記録を伸ばしました。

<試合成績> (S: シングルス、W: ダブルス)  
春季北信越選手権大会 男子・女子団体優勝  
女子S優勝(西見) / 男子W優勝(森貴・鈴木)、  
夏季北信越選手権大会 男子・女子団体優勝  
女子 S優勝(宮里) / W優勝(西見・宮里) / 男子 S  
優勝(鈴木) / W優勝(森貴・鈴木)、秋季北信越  
選手権大会 男子・女子団体優勝 / 女子S優勝(宮里) / W優勝(西見・宮里) / 男子W優勝(森貴・中居)、北信越新人選手権大会 女子団体優勝 / 女子W優勝(西見・宮里) / 男子S優勝(宮本)、全  
日本大学対抗選手権大会 女子団体ベスト16  
(早稲田に3-2で惜敗)、全日本学生選手権大会  
女子Wベスト16(西見・宮里) / 男子Wベスト8(森  
貴・鈴木) (学生代表:堀木 友子)



#### ●女子バレー部

練習の厳しさの中でも楽しさを忘れず、常に上を目指し練習に取り組んでいます。

(試合成績) 森田杯北陸三県学生春季リーグ戦  
1部優勝、春季北信越大学選手権大会1部3位、  
東日本大学選手権大会 ベスト32、森田杯北陸三  
県学生秋季リーグ戦 1部優勝、秋季北信越大学  
選手権大会 1部準優勝、秩父宮杯全日本大学女  
子選手権大会出場 ベスト64  
(学生代表:中山 由美子)



#### ●硬式野球部

毎週水曜日、土曜日、日曜日、金曜日の16時30分よりグラウンドにて練習し、土曜と日曜に大会があります。

成績は、北陸大学野球連盟春季リーグ大会が8位、また秋季リーグ大会が6位でした。  
(学生代表:松岡 洋平)

#### ●準硬式野球部

成績は、春季北信越地区大学大会予選敗退、秋季北信越地区大学大会ベスト16、関東親善大会北信越代表優勝、全日本大学9ブロック大会にも参加しました。(学生代表:藤野 敦士)

#### ●硬式テニス部

北信越各大会や全国大会に参加しました。  
<試合成績> 北信越大学対抗テニス王座決定試合4部3位、北信越学生テニストーナメント大会(本戦) (シングルス) 山本晴香 優勝/齊藤俊樹 ベスト64 (ダブルス) 山本晴香 準優勝/齊藤俊樹・鈴木亮平 ベスト32、北信越学生テニス選手権大会(本戦) (シングルス) 山本晴香 優勝 (ダブルス) 山本晴香 ベスト4、全日本学生テニス選手権大会(シングルス) 山本晴香 1回戦敗退 (ダブルス) 山本晴香 2回戦敗退  
(学生代表:七澤 良太)

#### ●男子/女子バスケットボール部

毎週、月・木曜日に練習しています。  
春季北信越バスケットボール選手権大会 男子4部3位、女子3部2位、秋季北信越バスケットボール選手権大会 男子ベスト16、女子3位、石川県学生バスケットボール選手権大会 男子2回戦進出、女子3位 (学生代表:表 修平)

#### ●N S S

各地大会に参加し、好成績をおさめています。  
キンボールジャパンオープン(10.31大阪) 女子優勝(2連覇)/男子準優勝、東海・北陸大会(11.28三重)優勝、小矢部市交流大会(12.5富山)優勝、かほく市大会(石川)優勝。キンボール講習会も行っています。(学生代表:寺島 洋平)

#### ●バドミントン部

毎週水曜日に市内の福祉センターの体育館で18時から21時までの3時間、練習しています。  
大会にはまだ出場していませんが、星稜短期大学・北陸大学との練習試合をしました。当面大会に出て競える実力をつけることが目標です。  
(学生代表:土居岸 孝次)

#### ●ダンス部

放課後練習の他、土日や長期休暇中には、県内のイベントや高齢者・障害者施設でダンスの披露、レッスン等を開催。また全員で技術の上達や親睦を深める為に合宿も行っています。12月にその年の集大成として自主公演を開催。公演は自分たちでダンスの振付け、衣装、大道具の作成から広報活動まで手作りの舞台を行っています。(学生代表:江田 乃梨子)



#### ●サークルS

約30名程で活動しています。夏には、毎年恒例のキャンプを実施。また今年度は学園祭の模擬店に初参加、1年生の頑張りもあり、模擬店大賞副賞を頂きました。  
(学生代表:坂下 早矢香)

# 「眞面目」に取り組むということ



十年前三十歳から車いすマラソンを始め、多くの車いすマラソン大会に出場するにつれ、いつかは憧れのパラリンピックのステージに立ちたいと、いう目標が芽生えました。それからは夢を実現するために自分に勝ち、同じ夢を持つ多くの相手に勝つために、辛くても努力するという日々の練習が始まりました。一秒でも速く走るために、ひたすら走る。長時間走る、全力で走る。仲間と走る、坂道を走る、向かい風を走る、いろんな走り方で、一ヶ月五百キロメートルを目標に走っています。走り続けた先に、車いすマラソン大会での結果が自分の努力の成果を教えてくれ、世界を望む自分が対し更なる努力を求める材料になりました。

障害者スポーツは「眞面目」の競い合いだと実感しました。身体も精神もバランスを崩した障害者にとつて、まず立て直すことから始まります。

だから障害者スポーツには素質とか才能とかはありません。マイナスからのスタート。そこからゼロに戻し、更にプラスに転じていく。いい加減な気持ちでは至れない、熱くけれど地道な積み重ねが今の自分を造っています。誰よりも気持ちで負けないよう、努力している自分を愛し、競走用車いすを愛し、障害者スポーツを愛し、大好きな気持ちで挑んだ成果が、アテネパラリンピックでの勝因だつたと思います。

アテネパラリンピック大会前の夏、地元の福井は大水害に見舞われ、市役所職員として休日返上の仕事につき、充分な練習が出来ませんでした。四年越しの夢がかないアテネでは日本代表選手となりました。逃れることの出来ないこの環境の中、今の自分に何が出来るのか。四の五の言わずには、やらないのか分からず落ち込んでいました。逃れることの出来ないこの環境の中、今の自分に何が出来るのか。四の五の言葉で、やらなければならぬ日々の練習をしながら考えました。その中で得た答えは、確かに練習量では勝てない、でも気持ちでは誰にも負けない矢先の出来事にどうしたら良いのか分からず落ち込んでいました。逃れることの出来ないこの環境の中、今の自分に何が出来るのか。四の五の言葉で、やらなければならぬ日々の練習をしながら考えました。そこまで眞面目にやつてきた、これからも眞面目にやつしていく、車いすマラソンに対する熱い想いは変わらない、この気持ちを軸に挑んでいこうと切り替えてからは、迷いが取れて集中して練習することが出来ました。こんなこともあり、メンタル面も自然と鍛えられました。

車いすマラソンに出会うまでは、辛いことがあると、何で自分がこんな辛い目に遭わなきゃいけないんだ、こんな辛い目に遭っているんだか

ら特別扱いされて当然だと思つていました。車いすマラソンに出会つてからは、みんなそれぞれの環境の中で辛い練習を経て大会に挑んできている。そんなライバル達を目の当たりにして、自分が辛いのではない、特別な存在ではないことを知りました。スポーツマンシップに則り正々堂々プレイする上に置いて、特別扱いは「ルール違反」につながるのです。ルール違反をすればスポーツ自体成り立たなくなります。社会のルールにおいても障害者たからと甘えていては、社会の一員として認めてもらえるはずがありません。よく自分のやりたいことが見つからないという人がいますが、やれることの少ない障害者から見れば贅沢な悩みです。自分に対する過剰な自己評価が、自分自身を見失い歪めているのではないかというふうか。社会の中で多くの人達が、責任をもつて役割を果たし、みんなの日々の生活が機能しています。パラリンピックを始め障害者が参加できる大会に出席する時、どの選手も大会を成功させるために、選手の立場から積極的に協力しています。その成果を認めてもらい、出来ることもやるべきでもらえない社会の環境を変えていくのに、スポーツに取り組んでいる日々の自分の姿が貢献できれば思っています。

たかだとしひろ 一九六五年福井県朝日町生まれ。福井工業大学大学院工学研究科電気工学修士課程卒業。会社員を経て福井市役所に勤務。五歳ころからシャルコ・マリー・ツース病(神経性進行性筋萎縮症:手足の末梢神経が衰える難病)にかかり両足が不自由になる。一九九六年より車いすマラソン競技を始め、国内大会に参加。二〇〇一年からトラック競技にも参加し、その後世界のトップアスリートとなる。二〇〇四年アテネパラリンピック大会陸上競技、男子四〇〇メートル(T-五二)、五〇〇メートル(T-五二)の3冠を達成(一五〇メートル(T-五二)でも銅メダルを獲得)。



# 高田稔浩

KIND